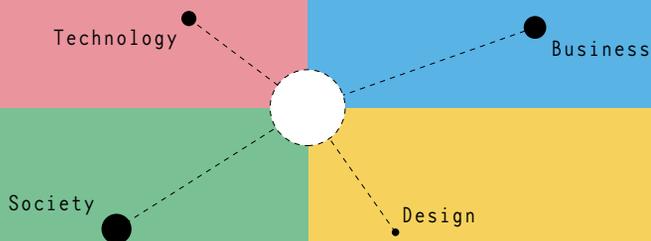


後藤滋樹

ごとう・しげき: 早稲田大学 理
工学部 情報学科教授。MINC
理事、APAN副議長などアジ
ア太平洋のインターネット界で
活躍している。

goto@goto.info.waseda.ac.jp



計画の終焉

計画が好きな日本人

日本の社会は計画を重視する。とにかく計画どおりに実行しようとする。これが社会の隅々まで貫徹している。おかげで、電車は時刻表のとおり運行している。飛行機も日本の航空会社ならば予定時刻に出発する。飛行機の乗客も、日本人ならばキチンと行列を作って整然と乗り込む。全員が協力する姿は見事である。

本誌のような雑誌も予定どおりに発行される。新聞の配達で、ある家に新聞を入れ忘れてしまったら、販売店は平謝りをしなければならぬ。顧客が間違いのない配達を期待しているからだ。

その反面で、意味のなくなった計画でも守られる。全国各地で公共事業の中止が話題になっているのは、特に議論が起ころなければ、計画されたとおりに継続されてしまうからだ。公共事業のように大きな仕事でなくても、黙っていれば多くのことが自然に継続される。

計画を守ることは、もちろん社会的に意味がある。お互いに計画を尊重していれば、社会は秩序正しく予定どおりに仕事が進む。これが、日本の高品質な工業製品を背後で支えてきた。いわば日本社会の長所であった。それが現在では裏目に出ているようなところがある。

計画経済は失敗

計画経済は社会主義のキーワードだ。今では支持する人が少ない。現代ならば産業連関表をコンピュータで計算するという発想かもしれないが、昔の計画だから「紙と鉛筆」を使う。その紙や鉛筆の生産もうまいかなかったのが計画経済の現実だ。

今となっては貴重な経験であるが、私は旧共産党時代の東欧を旅行したことがある。ある国では紙は貴重なものであって、国外には持ち出し禁止となっていた。冗談ではなく隣国のトイレトペーパーはひどかったという。また鉛筆は輸出されていて西欧の文具店にも並んでいたが、低価格に見合う品質でしかなかった。

計画経済は興味深い経済のモデルだが、現実には自由経済に負けてしまった。この歴史の教訓は有用である。経済活動のすべてを計画でカバーすることはできなかった。

そのほかにも、世の中には事前に計画できないことがたくさんある。

計画研究はできない

私はNTT研究所に20年以上勤務して、今は大学で仕事をしている。長年にわたって研究活動に従事してきた。研究には、研究計画というのがつきものである。これは企業の研究所でも大学でも同じだ。研究計画について何も説明をしなければ予算が確保できない。

ところで、研究というのは最初から全部を見通せるものではない。もし研究の全部が計画できるものならば、その研究プロジェクトを遂行するまでもなく、結果がわかっていることになる。そのような研究は不要だ。

つまり、研究における計画というのは、決して全部を決めているものではない。あくまでも大枠を定めているに過ぎない。この点において、まだ世の中では誤解があると思う。計画がしっかりしている研究がよいという主張が見られるからである。綺麗な作文が有用な研究成果を保証するものではない。

試行錯誤はリスクを伴う

現在の日本を取り巻く状況は予断を許さない。時間の経過とともに事態が悪化していると思う。ここで昨日と同じ仕事を繰り返していたのでは、日本の明日はない。多くの人が、そう考えている。しかし現実には、ほとんどの日本人が昨日と同じ仕事を反復している。

新しい仕事は研究と同じだ。やってみなければわからない。つまり計画を立てにくい。ここで計画が好きな日本社会とのギャップが目立ってしまう。

市場経済が計画経済に勝るのは事実としても、市場というのは平穩ではない。たとえば株式市場を見ると、多くの銘柄は実に細かく相場が変動している。その動きは事前には計算できない。つまり計画できない。

研究、あるいは新しい事業というものは、市場における相場のように変動する。成功することも失敗することもある。スポーツの勝負のようなものである。1人の研究者、あるいは1人の起業者にとっては、リスクを背負うことになる。それが現実の世界だ。成功を約束する計画というものは存在しない。

未来の予測は誰にもできない。未来を切り拓くには試行錯誤というリスクをとる必要がある。計画を重視するだけでなく、錯誤のリスクを覚悟しなければ、新しい明日を迎えることができない。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp